



TITLE:

編集後記 (泌尿器科紀要 第56巻第
6号)

AUTHOR(S):

CITATION:

編集後記 (泌尿器科紀要 第56巻第6号). 泌尿器科紀要 2010, 56(6): 350-350

ISSUE DATE:

2010-06

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/122336>

RIGHT:

3. 論文の採否：論文の採否は Editorial board のメンバーによる査読審査の結果に従い決定される。ただし、シンポジウムなどの記録や治験論文については編集部で採否を決定する。
4. 論文の訂正：査読審査の結果、原稿の訂正を求められた場合は、40日以内に、訂正された原稿に訂正点を明示した手紙をつけて、前記泌尿器科紀要刊行会宛て送付すること、なお、Editor の責任において一部字句の訂正をすることがある。
5. 採択論文：論文が採択された場合、原稿を3.5インチフロッピーディスク・MO ディスク・CD-R・CD-RW のいずれかに保存し、編集部へ送付する。ディスクには論文受付番号・筆頭著者名・機種名・ソフトウェアとそのバージョンを明記する。Windows の場合は MS-Word・一太郎、また Macintosh の場合は EG-Word・MS-Word とし、特に Macintosh においては MS-DOS テキストファイルに保存して提出すること。
6. 校正：校正は著者による責任校正とする。著者複数の場合は校正責任者を投稿時指定する。
7. 掲載：論文の掲載は採用順を原則とする。迅速掲載を希望するときは投稿時にその旨申し出ること。
 - (1) 掲載料は1頁につき和文は5,775円（税込）、超過頁は1頁につき7,350円（税込）、写真の製版代、凸版、トレース代、別冊、送料などは別に実費を申し受ける。
 - (2) 迅速掲載には迅速掲載料を要する。5頁以内は31,500円（税込）、6頁以上は1頁毎に10,500円（税込）を加算した額を申し受ける。
 - (3) 薬剤の効果、測定試薬の成績、治療機器の使用などに関する治験論文および学会抄録については、掲載料を別途に申し受ける。
 - (4) 掲載論文は刊行後1年を経過した時点で電子ジャーナルとして公開する。
8. 著作権：当誌に掲載する著作物に関する国内外の一切の著作権（日本国著作権法第21条から第28条までに規定するすべての権利*を含む。以下同じ。）は泌尿器科紀要刊行会に帰属するものとする。
 著作者の権利：当誌が著作権を有する論文等の著作物を著作者自身がこの規程に従い利用することに対し、当誌はこれに異議申し立て、もしくは妨げることをしない。著作者は、投稿した論文等について本学会の出版物発行前後にかかわらず、いつでも著作者個人の Web サイト（著作者所属組織のサイトを含む）において自ら創作した著作物を掲載することができるが、掲載に際して当誌からの出典である旨を明記しなければならない。
 *以下の権利を含む：
 複製権（第21条）、上演権及び演奏権（第22条）、上映権（第22条の2）、公衆送信権等（第23条）、口述権（第24条）、展示権（第25条）、頒布権（第26条）、譲渡権（第26条の2）、貸与権（第26条の3）、翻訳権、翻案権等（第27条）、二次的著作物の利用に関する原著作者の権利（第28条）。
9. 別刷：30部までは無料とし、それを超える部数については実費負担とする。著者校正時に部数を指定する。

編 集 後 記

京大病院では、任天堂の山内相談役からの寄付による新病棟が完成し、泌尿器科病棟はこの6月から新病棟の最上階八階へ移転した。多くの大学病院が経営赤字に苦しむなか、75億円もの浄財によって老朽化した病棟を建て替えることが出来たのは非常に喜ばしいことだったが、新病棟稼働までにはたいへんな問題があった。1つは2007年から始まった京都の新景観条例。京大病院地区は鴨川の東にあり、八階建ての新病棟は高さ制限に抵触する。病院長はじめ事務担当者が何度も京都市に説明に行き、特例1例目としてやっと認可を受けた。次は内部設計と移転計画。侃々諤々（かんかんがくがく）の議論の末、この新病棟はがんセンターとしての機能を持たせることとなり、一階には外来化学療法部、二階には集学的がん診療部が入った。出来るだけ病棟空床を作らないために、綿密な移転計画とリハーサルが行われ、やっとこの度の移転が行われた。

高さ制限を超えているので、泌尿器科病棟からみる京都の景色は「すばらしい」の一言に尽きる。東には左大文字が真正面にみえる。南には京都タワー、西には右大文字と京都を取り巻く低い峯々が遠望できる。この南西の角には控え室や応接室を備えたSS室（たぶん Super-Special 室の略称）がある。なんと一泊12万円である。ずいぶんお高いようであるが、家族4人くらいは十分寝起き出来るので、京都観光も兼ねての入院と考えれば（そのようなことを考える患者のかたがおられればではあるが）リーズナブルかもしれない。残念ながら今のところ予約は入っていない。空けておくのはもったいないが、ここで京都の夜景を眺めながらワインを飲むというような特権は診療科長といえども認められていない。

（小川 修）